

第5期「北海道アウトドア活動振興推進計画」(素案)についての意見募集結果

令和4年(2022年)3月7日

第5期「北海道アウトドア活動振興推進計画」(素案)について、道民意見提出手続により、道民の皆様からご意見を募集したところ、1人、5団体から、延べ14件のご意見が寄せられました。

ご意見の要旨及びご意見に対する道の考え方については、次のとおりです。

意見の概要	意見に対する道の考え方※
3 ページ (7) アドベンチャートラベルの振興 カヌーやホエールウォッチング等は数千円～1万5千円程度で手軽に体験可能であり、欧米の富裕層を主な顧客とすることは一般道民から反発を招くのではないかと。また、障がい者向けのアウトドア活動振興方策を検討すべき。	道ではアドベンチャートラベルを、今後の北海道観光の主要な柱の一つとなるよう、積極的に取り組んでいくこととしております。今後の検討に当たっては、ご意見のような懸念の声があることも留意してまいります。また、今回の「北海道アウトドア活動振興推進計画」に記載の各施策は、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に資するものとして実施することとしており、障がい者向けの方策に関するご意見については、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。 C
4 ページ (1) 体験型観光の現状 トレイルライディングは一般的にマウンテンバイクによるアクティビティを指すのではないかと。	「トレイルライディング」については、マウンテンバイクによるアクティビティも指すと考えられますが、「北海道アウトドア資格」においては、野外騎乗を指すものとしています。 E
5 ページ (2) アウトドア資格制度の現状、他 犬ぞり、スノーモービル、ツリークライミング、ジップライン、パラグライダー、及び気球のガイド資格が必要	「北海道観光審議会」において、アドベンチャートラベルに対応した「新しいガイド制度のあり方」の検討を行っております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 C
5 ページ (2) アウトドア資格制度の現状、他 多様なアウトドアが存在する中、現在の「北海道アウトドア資格制度」では山岳やカヌーなどの5分野に限定されている。一方で、ATWS のツアーには同資格が必須とされ、実態と乖離している。	ATWS のツアーにおいては、「北海道アウトドア資格」の保持を必須とはしておりません。また、これらのツアーには、同資格以外のアウトドアアクティビティも含まれております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 C

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>5 ページ (2) アウトドア資格制度の現状、他</p> <p>「北海道アウトドア資格制度」の対象分野を拡大するか、対象外の分野も道の施策の対象としていただきたい。</p>	<p>「北海道観光審議会」において、アドベンチャーラベルに対応した「新しいガイド制度のあり方」の検討を行っております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>5 ページ (1) 体験型観光の現状</p> <p>・「体験メニュー」と「体験型観光メニュー」と二つの言葉があるが、意味が違うのか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、以下の文言を修正しました。</p> <p>(略) 北海道のアウトドアをはじめとした体験型観光への関心が高まっており (略) (5 ページ 16 行目)</p> <p style="text-align: right;">A</p>
<p>10 ページ ②学習の機会の提供</p> <p>道民に対するアウトドア普及活動として、自治体への呼びかけや、小中学校での地域活動との連携を要望する。</p>	<p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>11 ページ ①アウトドアガイドの育成</p> <p>マスターガイドが出演する、TV やネットの CM が必要</p>	<p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>11 ページ 2 アウトドア資格制度によるガイド及び事業者の育成等</p> <p>H28 年から R2 年にかけて、北海道アウトドア資格保有ガイドが 508 人→500 人と微減した要因を分析し、課題として整理すべき。</p>	<p>本計画の中間年にあたる令和 5 年度を目処に、新たなガイド制度に対応した指標への改訂を予定しております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>15 ページ ①自然とふれあう場の確保</p> <p>・「海岸浴」とは海水浴なのか、海気浴のことか。</p>	<p>海岸浴とは、海気浴と同様の意味です。</p> <p style="text-align: right;">E</p>
<p>17 ページ ②受入体制の整備</p> <p>旅行者がインターネット等を利用し旅行前に情報を調べ予約する以外に、旅行中にも、アウトドア活動についての情報を得られるワンストップ窓口が求められているのではないかと。</p>	<p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

意見の概要	意見に対する道の考え方※
<p>18 ページ 6 アドベンチャートラベルの推進</p> <p>アドベンチャートラベルは、コロナによる影響を受けやすく、またガイドによる地域文化紹介や多言語対応に大きな問題があり時期尚早。日本人対象に商品開発やスキルアップに集中し、同時に多言語・文化の習得を行い、3年ほど時間をかけて取り組むべき。</p>	<p>道ではアドベンチャートラベルを、今後の北海道観光の主要な柱の一つとなるよう、積極的に取り組んでいくこととしております。国際的に通用するハイレベルなガイドを育成することが、結果的に国内市場の開拓にもつながっていくものと認識しております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>18 ページ 6 アドベンチャートラベルの推進</p> <p>アドベンチャートラベルを推進していくためにはアウトドアガイドの数が不足している。今後、人材育成とともに、宿泊事業者及び近隣のアウトドアガイド事業者が情報共有し、顧客をシェアできる仕組みが必要ではないか。</p>	<p>「北海道観光審議会」において、アドベンチャートラベルに対応した「新しいガイド制度のあり方」の検討を行っております。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>
<p>全体</p> <p>アウトドアガイドの課題であるガイドスキルと所得の向上等を反映できる場所（組織）を再生し、これらの課題を解決するための講習等を計画する「新アウトドア協会」の設立を求める。</p>	<p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">C</p>

※「意見に対する道の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

A	意見をを受けて案を修正したもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	案に取り入れなかったもの
E	案の内容についての質問等

問い合わせ先
北海道経済部観光局観光振興課
電話：011-206-6944（直通）